



# ロオドベルトスノ労働價値學説ト平均利潤率ノ問題 (其一)

小泉, 信三

---

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 29(3):309-323

(Issue Date)

1920-09

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053227>



商業學 國民經濟雜誌 第二十九卷 第參號

(大正九年九月一日發行)

論

說

ロオドベルトスノ勞働價值學說ト

平均利潤率ノ問題

(其一)

慶應義塾大學教授

小泉 信三

一

勞働價值說ニ取テ最大ノ難關ガ利潤率均一ノ事實(若シクハ傾向)デアルコトハ既ニMarx資本論第一卷ト第三卷トノ間ニ所謂「矛盾」スル事實ニ依テ充分明カニ證示セラレテ居ル。若シモMarx等ノ主張スル様ニ價值ガ投下勞働量ノミニ依テ決定セラル、モノナラバ同額ノ資本ヲ投ジテ生産ヲ行フ場合ト雖モ、ソノ資本中勞働者雇傭ノ爲メニ投ゼラル、部分ノ割合ガ相等シカラサル場合ニハ(Marxノ術語デ云ヘバ)資本中ノ可變部分——賃銀トシテ支出セラル、部分——ト不變部分——

——原料機械等人間以外ノ物ノ爲メ支出セラル、部分——トノ割合、即チ所謂資本ノ有機的組織ヲ同フセサル場合ニハ)新タニ產出セラル、價值量ハ相等シカラサル可キ筈デアル。從テ同額ノ資本ガ生ムトコロノ利潤額ハ資本ノ有機的組織ガ異ナルニ從ツテ相違シナケレバナラス筈デアル。然ルニ目前ノ事實ハ此理論ニ反シテ居ル。利潤率ハ諸多ノ産業ヲ通ジテ均一ニ歸スルノ傾ヲ示シMark其人モ亦敢テ此事實ヲ否認シナカツタノデアル。其處デMarkノ價值理論ト平均利潤率ヲ其構成要素トスル其生産價格ノ理論トノ關係ハ多數經濟學者ニ取テハ甚ダ不可解ノモノトナラサルヲ得ナイ。Mark infatibleノ信仰ヲ以テ之ニ臨ムニアラザル限り、多クノ人ハ是ヲ以テMark系統中ノ最大弱點ト認メルコトニ躊躇セスデアラウ。併シ之ハMarkニ就テノミ云ハルベキ事デハナイ。苟モ勞働價值學說ヲ徹底的ニ主張スルモノハ何人モ此障害ニ逢着セザルヲ得ナイノデ、若シRicardoノ如キモ價值ニ關スル其論究ヲ其Principlesノ始メノ三節(第三版以後ニ就テ言フ)ニ限り……貨物ノ交換價值若シクハ一貨物ノ幾許量ガ他ノ貨物ト交換セラル可キヤヲ決定スル規則ハ殆ド全ク其ノ各々ニ投ゼラレタル勞働ノ相對量ニ由テ決セラレルト云フニ止メタナラバ、彼レノ價值論ハ必ズ利潤率平均ノ事實ト相容レヌモ

ノトナツタニ相違ナイ、然ルニRicardoハ人ノ屢々速了セルヤウニ單純ナ勞働價值論者デハ決シテナカツタ、彼レガ勞働ノミヲ價值ノ決定原因トハ認メテ居ナカツタ事ハ、ソレヲ認メテ居タMcCullochニ對シテ價值ヲ決定スルノ原因ハ一デナクテ二アル事ヲ力説シタノニ徴シテモ之ヲ疑フベキ餘地ハ全クナイ、然ラバ價值ヲ決定スル二原因トハ何カ、今之ヲRicardo自身ノ言葉デ言ヘバ……價值問題ニ就テ「最善ノ思索ヲ重ネタ結果、余ハ貨物ノ相對價值ヲ動カス原因ガ二ツアル事ヲ信ズルモノデアル、第一ハ貨物ヲ製作スル爲メ必要ナル勞働ノ相對的量、第二ハ勞働ノ成果ガ市場ニ賣出サレル迄ニ經過スル時間ノ長短ダ」ト云フノデアル、而シテ嘗テ別ノ機會ニ説明シタ通り(拙稿「價值學說」ノ改造論上ニ於ケル地位)雜誌「改造」大正九年四月號所載「コノ時間ノ長短ナル要素ハ結局之ヲ利潤ニ reduce シテ考ヘル事ガ出來ル、デアルカラ、極ク大體ニ於テRicardoヲシテ單純素朴ナル勞働價值說ノ取ル可カラザル所以ヲ覺ラシメタモノハ亦タMarxヲシテ價值トハ異ナル生産價格ニ到達セシメタ同ジ平均利潤率デアルト云ツテモ差支ナカラウカ、ソコデMarxカ其價值法則ヲ辯護シテ平均利潤率ナルモノ未ダ發生セズ、生産要具ハ勞働者自身ノ手ニ屬シタルガ如キ原始狀態ノ下ニ於テハ價值法則ハ現實交換

比率ヲ支配スルモノデアルト記シタ (Kapital III. 1. S. 156) ノト同シヤウニ Ricardo モ亦其勞働價值說ニ甚シク制限ヲ加ヘテ、(一)人ガ生産上何等ノ機械ヲ用キズシテ勞働ノミヲ使用シ且ツ貨物ガ市場ニ持來タサル、迄ニ經過スル時間ノ同一ナル場合及ビ(二)人ガ同價值ニシテ且ツ存續(耐久)力ヲ同フスル固定資本ヲ用キル場合ニ於テノミ貨物ノ交換價值ハ費ヤサレタル勞働量ニ依テ左右セラルトシタノデアル。 (Principles 3rd ed. p. 28)

之ヲ要スルニ、利潤率歸一ノ傾向ヲ事實トシテ承認スル以上ハ單純ナル勞働價值說ハ之ヲ支持スル事ガ出來ナイラシク思ハレル。 Carl Rodbertus-Jagetzow ガ勞働價值說ヲ前提トシテ打立テタ分配理論ノ全系統モ亦タ此理ヲ示ス一例證ヲ供スルモノデアル。

## 二

「經濟的社會主義」ノ Ricardo, (A. Wagner) ヲ以テ稱セラル、Rodbertus ノ經濟理論系統ハソノ壯年ノ頃夙ク完成ノ域ニ達シテ爾後生涯ヲ通ジテ餘リ變易スルトコロガナカツタヤウデアル。即チ今其三十七才ノ著作ナル Zur Erkenntnis unserer staatswirtschaftlichen Zustände, 1842. (假ニ國家經濟原理ト譯ス)ヲ取テ之ヲ V. Kirchmann ニ與クテ

公開狀三通 (Social Briefe an von Kirchmann von Robertus. Erster Brief: Die sociale Bedeutung der Staatswirtschaft. 1850—Zweiter Brief: Kirchmann's sociale Theorie und die meinige. 1850—Dritter Brief: Widerlegung der Ricardo'schen Lehre von der Grundrente und Begründung einer neuen Rententheorie. 1851. (右ノ中第二第三書簡ハ之ヲ合綴シ多少ノ變更ヲ加ヘテ一八七五年 Zur Beleuchtung der socialen Frageノ題下ニ公ニセラレテ居ル) 及ビ其遺稿ナル「資本論」(Das Kapital. Vierter socialer Brief an von Kirchmann von Dr. Carl Rodbertus-Jagetzow. Herausgegeben und eingeleitet von Theophil Kozak. Berlin 1884) ト比較スルニ、勿論時々必要ニ應ジテ重點ノ所在ハ同一デナイガ、其分配原理ニ就テハ常ニ同ジ事ガ反覆力說セラレテ居ルノデアル。ソレデハ彼レガ反覆説明スルトコロノ分配理論ハ如何ナルモノデアッタカ。其要領ヲ摘記スレバ凡ソ次ノ如キモノデアル。

Robertusノ經濟學的思考ハ「凡ベテノ經濟財ニハ勞働ガ費ヤサレテアル。而シテ勞働ノミガ費ヤサレテアル」kosten Arbeit und kosten nur Arbeitト云フ命題ヲ以テ出發スル。之レガ彼レノ第一定理デアル。(Erkenntnis, S. 1-30) 彼レハ別ノ處デ之ヲ説明シテ斯ウモ云フ。凡ベテ經濟財ハ皆勞働產物デアアル、換言スレバ勞働ノミガ生産的デアアル。サウ云フ意味ハ第一勞働ノ費ヤサレタ財ノミガ經濟財ニ屬スル。

自餘一切ノ財ハソレガ人類ニ取ツテ如何ニ必要有用デアツテモ皆自然財デアツテ經濟ト相係ハルトコロガナイ。第二ニ經濟財ハ凡ベテ勞働ノミノ所産デアアル。即チ是等ノモノハ經濟上ノ觀察 *Aufassung* ニ取テハ自然若シクハ他ノ何等カノ力ノ産物トシテバナク、勞働ノ産物トシテノミ意義ヲ有スル。是以外ノ觀方ハ博物學的觀方デアハルカモ知レナイガ、經濟的ノ觀方デアナイ。第三、經濟上カラ見ルト財ハ生産上必要ナル物質的作業 (*materielle Operationen*) ヲ行フ勞働ノ産物ニ過ギナイ。但シ茲ニ物質的作業ト云フノハ一定財ノ生産ニ直接ニ當ル勞働ノミヲ意味スルノデアナクテ、其財ヲ生産スル爲メニ用キラレル道具ノ生産ニ當ル勞働ヲモ含ム。即チ穀物ハ鋤ヲ造ル人ノ産物デモアル (III. Brief S. 26—28) Rodbertus ノ公式ヲ借りテ云ヘバ  $x$  財ハ  $m$  量ノ勞働ノ産物デアルト云フ。  $m$  ハ財ノ生産ニ投ゼラル、直接勞働ノ量、  $n$  ハ生産要具ヲ造ル爲メニ費ヤサル、勞働量、  $o$  ハ生産要具ガ完全ニ消耗シ盡クサレル迄ニ生産シ得ル  $x$  財ノ量デアアル (*zur Erkenntnis S. 12*)

Rodbertus ノ第一定理ノ意味ハ凡ソ此ノ如キモノデアアル。

## 三

既ニ一切ノ經濟財ハ勞働ノ所産デアアルカラ、勞働ニ從事スルモノハ勞働ノ全産

物ヲ其所得トシテ收メナケレバナラヌ筈デアアルノニ今日ノ社會デハ此正義ノ要求ハ滿タサレナイデ勞働者ハ僅カニ其生産物ノ一部分ヲ賃銀トシテ收メ、他ノ部分ハ悉ク Rente トシテ財産所有者ノ手ニ歸屬スル。茲ニ Rente ト云フハ賃子賃料、無勞所得又ハ財産所得トモ譯ス可キモノデ、Rodbertus ニ從ヘバ「自ラ勞働スルコトナク財産ノ力ニ依テ取得スル一切ノ所得」ノ謂ヒデ、地代モ資本利潤 Kapitalgewinn モ資本、利子 Kapitalzins モ皆等シク是ニ屬スルノデアアル。(II. Brief S. 59) 然ラバ如何ナル原因ノ作用ニ依テ所得生産ノ爲メニハ一指ヲ動カスノ勞ヲモ取ラヌ人間ガ能ク所得ヲ收メ得ルノカ。既ニ Rodbertus ニ從ヘバ、所得ハ悉ク勞働ノ所産デアアルカラ、若シモ各勞働者ノ勞働ガ、總カニ己レヲ支ヘルニ足ル丈ケノ所得ヲシカ產出スルコトガ出來ナケレバ、無爲ノ人ガ他人ノ所産ニ倚賴シテ生活スルコトハ絶對的ニ不可能デナケレバナラヌシ、又假リニ勞働者ノ勞働ハ能ク己レ一身ヲ支ヘル以上ノ餘裕ヲ產出スルニシテモ、無爲ノ人ニ之ヲ奪取スルノ權力ガナケレバ矢張り Rente ナルモノハ成立スベキ筈ガナイン。ソレデ Rodbertus ハ Rente ノ成立ノ爲メニハ二ノ前提原因ノ備ハル事ヲ要スルト云フ。第一ハ經濟上ノ原因デ、第二ハ法律上ノ原因デアアル。(II. Brief S. 59, 60. III. Brief S. 42ff) 即チ曰ク、「勞働ニ依テ產出セラル

、以外ニ、所得ハアリ得ナイカラ、賃子ハ欠ク可カラザルニノ前提條件ヲ基礎トスル第一ニ勞働ガ少クモ勞働者ニ取テ勞働繼續ノ爲メ必要ナル以上ヲ產出スルニアラザレバ、賃子ナルモノハ生ジ得ナイ。

——蓋シ斯ノ如キ餘剩<sup>二</sup>ハガ存スルニアラザレバ、何人モ自ラ勞働スル事ナクシテ規則正シク所得ヲ收受スル事ハ不可能ダカラデアル。第二ニ此餘剩ノ全部又ハ一部ヲ勞働者カラ奪ツテ之ヲ自ラ勞

働セザル他人ニ與ヘル制度ガ成立シテ居ルノデナケレバ賃子ナルモノハ生ジ得ナイ。——何トナレバ勞働者ハ本來常ニ先ヅ自ラ其生産物ヲ占有スルカラデア

ル。此餘剩ガ全部又ハ一部分勞働者カラ奪ハレテ、他人ニ與ヘラレルト云フ事ハ人爲ノ法制ニ基ツクモノデアル。而シテ法律ハ常ニ威力ト結付イテ居ルカラ、從テ此奪取モ亦タ常ニ強制ニ依テノミ行ハレル。

此強制ガ最モ露骨明瞭ニ働ラクノハ奴隸制度デアル。奴隸制度ノ下デハ勞働者ハ生産要具ヤ生産物其者ト同ジク、主人ノ所有財産ニ屬シ、主人ハ奴隸ニ必要ナル食餌ヲ給スルノ外一切ノ生産物ヲ其自由ニ所分スル。而シテ主人ガ奴隸ヲ支配スル方法ハ直チニ暴力ソノ者デアツタ。然ルニ、今日奴隸制度ハ最早存續シテ居ナイ。勞働者ハ自由ナル人格デアル。ソレデハ今日如何ナル力ガ自由ナル勞働

者ヲ強制スルカト云ヘバソレハ饑餓デアル。即チ *Kodrigues* ノ文句ヲ引用スルト  
「此強制ハ始メ奴隸制度ニ依テ行ハレタ。(奴隸制度ハ農耕並ビニ土地所有ト同時  
ニ發生スル)己レノ勞働產物ニ於テ斯ル餘剩ヲ產出シタ勞働者ハ奴隸デアツテ、  
勞働者並ビニ生産物其者ノ持主タル主人ハ其中カラ(生産物ノ中カラ)僅カニ勞働  
繼續ニ必要ナ丈ケヲ勞働者ニ與ヘテ殘餘若シクハ餘剩ヲバ己レノ手ニ留メル。  
然ルニ一切ノ土地ガ私有ニ歸シ、又ソレト同時ニ一切ノ資本ガ私有セラレルト、土  
地所有者並ビニ資本所有者ハ解放セラレタル、若シクハ自由ナル勞働者ニ對シテ  
同ジ様ナ強制ヲ加ヘル事ニナル。何トナレバ、第一ソレハ奴隸制度ト正ニ同ジク  
生産物ヲシテ勞働者ニ屬セズシテ、土地及ビ資本ノ所有者ニ屬セシムルノ作用ヲ  
爲シ、第二ニ土地及ビ資本ノ所有者タル主人ニ對立スル無一物ナル勞働者ヲシテ  
其生活維持ノ爲メ、即チ其勞働繼續ノ爲メ、僅カニ自己勞働產物ノ一部分ヲ甘ンジ  
テ受ケシメルカラデアル。サウ云フ譯デ成程勞働者ト雇主トノ契約ガ奴隸制度  
ニ代ツタ事ハ代ツタガ、此契約ハ形式上ニ於テノミ自由デ、實質上カラ云ヘバ決シ  
テ自由デハナイ。饑餓ガ殆ド完全ニ答杖ノ用ヲナスノデアル。以前飼料ト呼バ  
レタモノガ今ハ賃銀ト呼バレルニ過ギナイノデアル。」

故ニ賃子ハ勞働者ノ手カラ其勞働產物ヲ搾取シタ結果デアル。Robertusハ茲ニ強奪Raubナル文字ヲ用キテ居ルノデアル。(Das Kapital, S. 202—3)。

## 四

既ニ與ヘラレタ前提ニ依テ、賃銀ト賃子トガ全國民所得中ニ占メル割合モ亦タ自ラ演釋セラレル道理デアル。賃子ハ勞働ノ生産能率が高メラレテ勞働者ノ生活必要程度以上ニ餘剩ヲ產出スルニ至ツテ始メテ發生スル。ソレ故勞働ノ生産能率ガ益々上進シテ餘剩ヲ生ム事ガ多ケレバ多イ程賃子ノ増大シ得ル餘地ハ擴大セラル、道理デアル。然ラバ賃銀ハ生産能率ニ伴ツテ上進スルコトハナイカト云フニ Robertusハ大體ニ於テ賃銀ハ勞働ノ費用價格 *Kostenpreis* ニ歸着スル傾アルモノト認メテ居タ。ソレハ既ニ賃子發生ノ前提條件ニ依テ窺ハレル許リデナク、彼ハ或ハ勞働ノ交換價值ハ其生活必要額ニ歸着セントシ、而シテ、生活必要費額ハ勞働者ノ欲望ニ依テ定マルモノデ、勞働生産物ノ分量ニ依テ定マルモノデハナイト明言シ、(*Kapital S. 202—3*) 或ハ又人口ガ増加シ、從テ勞働ガ一層生産的ニナリ、同時ニ個人ノ自由ガ大トナルニ從テ、勞働者ハ益々己レヲ廉價ニ賣ル必要ニ迫

ラレル。何トナレバ労働ハ益々競争而カモ不利益ナル競争ニ支配セラル、商品ニ近いモノニナツテ、雇主ハ益々低廉ニ提供スルモノニ仕事ヲ與ヘル事ニナルカラト記シテ居ルノデアル。(II, Brief S. 86)

本來 Robertus ニ從ヘバ賃子ト賃銀トハ相背馳スベキモノデ國民所得中賃銀ノ占メル割合ガ増加スレバ賃子ハソレ丈ケ減少シ、反對ノ事ガ行ハレ、バ又ソレ丈ケ反對ノ結果ヲ見ルベキ筈デアル。然ルニ上述ノ理ニ依テ賃銀ハ大體ニ於テ労働者ノ必要ニ依テ定マリ生産能率ノ増加ニハ伴フ事ガ出來ストスレバ分業ノ進歩技術ノ發達ニ依テ恩惠ヲ受ケルモノハ財産所得ノミデアツテ賃銀ハ之ニ與カル事ガ出來ナイ。即チ賃子ハ生産能率ト共ニ増進スルニ反シ、労働者ノ賃銀ハ、労働ノ生産能率増進スル場合ニハ生産物ニ對シテ益々小ナル分前ヲ占メル事ニナルノデアル。(II, Brief 84, 85)

註 茲ニ謂フ生産能率ハ Produktivität ノ譯ニ、之ヲ生産力トシナイノハ Robertus ガ別ニ Produktivkräfte ナル文字ヲ用ヒテ居ルノト區別スル爲メデアル。Produktivkräfte ハ労働人口ノ大小ニ依テ増減スル。生産能率ト生産力トハ相互單獨ニ増減シ得ルノデアル。

## 五

賃子ト賃銀トノ關係ハ上述ノ如クデアルガ、次ニ問題トナルノハ賃子ソノ者ハ如何ニ分割セラレテ資本利潤及ビ地代トナルカデアル。而シテ此理法ヲ解スル爲メニハ其基礎トナツテ居ル勞働價值說ヲ知ラナケレバナラス。

Robertus ハ一重ノ意味ニ於テ勞働價值說ヲ奉ジテ居タト云ツテ宜カラウ。ト云フノハ一方デハ彼レハ勞働ヲ以テ價值ノ尺度タルニ最モ適シタモノ、勞働ヲ以テ價值ノ尺度トスル事ガ最モ正理ニ適ヘルモノナル事ヲ主張シ、他方ニ於テハ貨物ノ交換價值ハ現實ニ生産ノ爲メ投下セラル、勞働量ニ依テ支配セラル、事ヲ認メテ居タカラデアル。第一ノ意味ニ於テ彼レハ『若シモ、財ノ價值ガ常ニソノ勞働費用額ニ等シキモノナラバ勞働ハ最良ナル價值ノ尺度デアルダラウ』ト云ヒ(E. kemmlis, S. 31)又自ラ如何ナル財ガ最モヨク價值ノ尺度タルノ用ヲナス可キカト云フ問ヲ設ケ、ソレニ答ヘテ疑モナク、ソレハ常ニ財ノ眞價ヲ最モ忠實ニ示ス事ノ最モ確實ナルモノデアル。貴金屬ハ人ノ知ル通り其レ自身ノ價格ガ變動スルト云フ缺點ヲ持テ居ル。反之勞働ハ凡ベテノ財ノ自然の價格決定原因ソノ者デアル。ソレ故ニ若シモ、財ノ相互交換セラル、分量ガ兩貨物ニ含マレタル同一量ノ勞働

ニ依テ決セラル、モノトスレバ、卽チ換言スレバ A ナル貨物ト B ナル貨物トハ常ニ此兩貨物ニ投ゼラレタル同一ノ勞働量ガ決定スル分量ニ於テ交換セラル、モノ、更ニ換言スレバ A 勞働ノ作ル貨物量ハ常ニ B 勞働ノ作ル貨物量ニ對シテ交換セラル、モノトスルカ、或ハサウナル様ナ仕組ニスレバ、勞働ハ當ニ之ヲ財ノ價值尺度トシテ用キ得ベキノミナラズ、貴金屬ヨリハ一層ヨク其役目ヲ果タスデアラウ。何トナレバ勞働ハ何等價格ノ變動ヲ被ルコトナク、常ニ同一ナル財ノ費用尺度タルモノダカラデアアルト云フノデアアル。(Erkenntnis S. 62. II. Brief S. 78) 此思想ハ漸ク進ンデ、彼レノ勞働貨幣ノ主張ニ到達スルノデアアルガ、右ノ引用文ニ依テモ知ラレル通り、彼レハ此場合常ニ若シ、モト云フ條件ヲ付ケテ議論ヲシテ居ル。此意味デ説ヲ述ベル場合ニハ彼レハ現實ノ交換比率ハ投下勞働量ニ依テ支配セラル、モノトハ斷定シテ居ナイ。故ニ彼ハ勞働ガ價值ノ尺度タリト云フハ既ニ實現セラレタル事實デハナクテ、將來ニ於テ實現セラル可キ、努力ノ對象タル理想ダト云フ意味ヲ反覆シテ述ベルノデアアル。(II. Brief, S. 80. III. Brief, S. 26) 併シ同時ニ彼レハ現實ノ所得分配ノ理法ヲ説明スルニ勞働價值説ノ承認ヲ以テ出發シテ居ル。

勿論茲ニ謂フトコロノ價值ハ所謂交換價值デアアル。ソレデハ交換價值ト使用價值トノ關係ハ何ウナツテ居ルカト云フニ個々ノ交換價值ハ斯ウシテ成立スル。即チ $M$ ガ自分ニ取テヨリ、少ナイ價值(即チ使用價值)ヲ有スルモノヲヨリ、多クノ使用價值ヲ有スルモノニ對シテ $B$ ト交換スル。同ジ動機ガ $B$ ニ於テモ働ラク。斯クシテ兩生産物ノ一定量ニ就テ交換ガ結了スル。斯クシテ交換ニ依テ一生産物ガ他ノ生産物ニ對シテ受ケル對償(Gelting)(即チ交換セラレタ相手ノ貨物ノ分量ニ依テ計量セラル、)ヲ稱シテ價值、即チ茲デハ交換價值ト云フ。故ニ交換ノ真相ハ各人ガ他人ノ爲メニ使用價值ヲ生産シ、又從テ他人カラ其代償ヲ受ケル關係ヲ設定スルニ在ル。而シテ交換價值ハ他人ニ對スル使用價值ニ外ナラスモノデアアル：ソレ故交換價值ハ又之ヲ社會的使用價值ト呼ンデモ好イ。ソレガ前者デアル事ハソレガ後者デアアル事ヲ證明スル<sup>アルトヘルツ</sup>ノデアアル。(II. Brief S. 73)。

此交換價值ガ Rodbertus ニ依レバ投下勞働量ニ歸着シヨウトスルノデアアル。勿論市價ハ(交換價值ガ普遍化シタモノヲ市價ト云フ)時々ノ需要供給ニ依テ定マルモノデアツテ、ソレガ個々ノ場合ニ於テ常ニ正確ニ勞働費用ニ一致スルモノデナイ事ヲ Rodbertus ハ明カニ認メテ居ルガ (II. Brief S. 92. K. p. 141 S. 6 etc.) 併シ市價ハ

結局自由ニ放任セラレタ交換ニ於テハ其「公正若シクハ自然ナル」交換價值ナル勞働費用額ニ絶エズ歸着シヨウトスル傾ヲ有ツテ居ル。何故ト云フニ、各人利己心ノ發動ノ結果、競争場裡ニ於テ市價ハ久シク其勞働ノ費用額以上ニモ以下ニモ止マル事ハ出來ヌ。若シ市價ガ「自然的」交換價值以上ニ在レバ、均衡ガ恢復セラレテ同量勞働ノ產物ト產物トガ交換セラル、様ニナル迄競争者ガ來リ加ハルデアラウシ、市價ガ「自然價以下」ニ下レバ、ソノ反對ノ事ガ行ハレルカラデアアル。ソレ故、大體ニ於テ生產物ノ市價ハ生產能率ニ反比例スル。同量ノ勞働力ヲ投ジテ二倍ノ生產物ガ作ラレルナラバ同量ノ生產物ノ市價ハ半減スル」ト云フノデアアル。(II. Brief S. 80-1. III, Brief S. 92. Kapital S. 6 ff.)

之ガ *Rodbertus* ノ價值論ノ大略デアアル。而シテ是ヲ基礎トシテ彼レノ分配論ハ演繹セラレルノデアアル。(未完)